

2024年4月1日
82号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人 渡辺明宏
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

ごあいさつ — 地域を護る病院として —



院長 吉井 慎一

2024年4月、医療の世界で大きな変化が予測される新年度が始まりました。

延長されていた「医師の働き方改革」が法律上開始されず、医師や医療機関だけでなく、市民の皆様にも影響は少なからず生じます。

「医師の働き方改革」とは、基本的に医師も労働者であり、年間の時間外労働時間に法的に制限を設けるものです。標準的医師をA水準（一般労働者と同水準）とし、年間の時間外上限時間を960時間としています。年間960時間は、一般の労働者では過労死の基準になるものです。医師全員をこの基準に当てはめると、医師不足地域の地域医療の崩壊、または心臓血管外科や脳神経外科診療など、高度な手技習得が困難になるため、特別にB水準やC水準の申請が認められると、年間の時間外上限時間は1,860時間となります。また、医師の健康確保（安全な医療を提供する）のため、連続勤務時間制限と、勤務間インターバル規制があります。これにより、日常の診療（外来、検査、手術等）と夜間・休日に救急を担当する医師は同じであるため、救急医療にとどまらず、通常の診療にも影響は必ず出ます。

影響が予測される中、行政としては抜本的な対策はできず、対応は各医療機関に委ねられています。

医療過疎地の病院では、当直医師は大学含め、外部の医師に非常勤として依頼しています。この派遣が無くなると、病院の存続にも関わってきます。この国は、膨れ上がる医療費を抑えるため、病院（特に急性期病院）が自然に減少していくことをめざしている感すらあります。

一方、救急医療の現状を見ますと、当医療圏の救急車出動のうち、入院の必要のない軽症患者は約半数を占めています。もちろん初めは軽症と思われても受診が必要な例は少なくありませんが、安易な救急車利用を無くすことは、救急車出動を減らす意味でも重要です。三重県松坂市で、救急搬送されながら入院に至らなかった場合、患者から選定療養費（200床以上の病院で紹介状なしに病院を受診した患者から病院が徴収するもの）として、1件（人）につき7,700円を徴収する検討に入ったと報道され話題になりました。この動きは全国に広がっていく可能性はあります。現行では病院独自に定めていいものですが、問題点も多く、導入に当たっては慎重な検討が必要です。

当院は幸い4月から、卒後3年から6年の医師（いわゆる専攻医）が10名増え、指導医の減少もありません。何とか救急医療と通常の診療を可能な限り両立させ、地域の医療を護っていく努力は惜しみませんが、診療科によってはマンパワーの問題から、通常の診療にも制限をかけざるを得ません。医師が長く勤務できる環境を作ることも病院の使命です。地域の皆様のご理解、ご協力をこれまで以上によりしくお願いします。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

4月	日	月	火	水	木	金	土	5月	日	月	火	水	木	金	土	6月	日	月	火	水	木	金	土	7月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	⑥				1	2	③	④									①			1	2	3	4	5	⑥
4	⑦	8	9	10	11	12	⑬	5	⑤	⑥	7	8	9	10	⑪	6	②	3	4	5	6	7	⑧	7	⑦	8	9	10	11	12	⑬
月	⑭	15	16	17	18	19	⑳	月	⑫	13	14	15	16	17	⑱	月	⑨	10	11	12	13	14	⑮	月	⑭	⑮	16	17	18	19	⑳
	㉑	22	23	24	25	26	㉒		㉑	20	21	22	23	24	㉔		㉑	17	18	19	20	21	㉒		㉑	22	23	24	25	26	㉒
	㉓	29	30						㉓	27	28	29	30	31			㉓	24	25	26	27	28	㉔		㉓	29	30	31			

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



消化器内科



消化器内科医師 廣島 良規

消化器内科は、食道、胃、十二指腸や小腸、大腸の疾患、肝臓、胆嚢、膵臓などの疾患に対する検査や治療を行っています。

主な疾患は、悪性疾患では食道癌、胃癌、大腸癌、胆のう癌、膵癌、肝臓癌など、良性疾患では胃潰瘍、十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、肝炎、膵炎、胆のう炎、総胆管結石による胆管炎などがあります。これらの疾患に対して、抗がん剤治療や内視鏡的治療、各種穿刺術などの治療を行っています。

当院では年間で、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）を約2,100件、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）を約1,900件行っています。緊急内視鏡は、吐血・下血に対する内視鏡的止血術を約100件、その他にも異物誤飲（入れ歯など）の内視鏡的摘出術や、腸閉塞に対するイレウス管挿入術などを行っています。

内視鏡治療は、早期消化器癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）を食道・胃に約80件、大腸に約40件行っています。また、総胆管結石や胆管炎、膵炎に対する内視鏡的ドレナージ術（ERCP）を約320件、超音波内視鏡を用いた膵癌などの精密検査（EUS）を約60件行っています。さらに、小腸内視鏡を用いた、通常は施行困難とされる胃切除後のERCPや、超音波内視鏡を用いたドレナージ術（EUS-GBD、CDS、HGS等）、外科と協力して行う腹腔鏡内視鏡合同胃局所切除術（LECS）などの、高度な内視鏡治療も行っています。

内視鏡以外では、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術や、B型肝炎やC型肝炎に対する抗ウイルス療法、炎症性腸疾患に対する専門的薬剤を用いた治療、悪性疾患（消化器癌）に対する抗がん剤治療などを行っています。

今後も、ひたちなか医療圏の中核病院として、可能な限り最大限の医療を提供してまいります。



内視鏡室



消化器内科医師

臨床工学科

臨床工学技士は、チーム医療の一員として、医師、看護師などの他職種と連携を取りながら、医療機器がいつでも安心して使用できるための保守・点検と生命維持管理装置の操作などを行っています。主な業務は、血液浄化、呼吸療法、手術室、内視鏡室、医療機器管理を担当しています。今後も、安心安全を第一として、良質な医療技術の提供と医療機器の安全性、有効性の向上に努めてまいります。



臨床工学科スタッフ

地域の先生紹介

勝田病院

当院は上尾中央医科グループの病院として「地域から信頼される病院」を理念に掲げ、地域のみなさまに貢献できるよう、日々努力しております。勝田病院はケアミックス型の病院で85床、一般病床54床、うち地域包括ケア病床8床、療養型病床31床を有しています。外科や整形外科の手術、内視鏡による検査、訪問診療や訪問看護を行っており、介護施設、老健勝田も同じ建物内にあります。また、二次救急病院として救急患者さんの受け入れを行っていますが限界もあり、ひたちなか総合病院にはいつも大変お世話になっています。

令和5年11月からはひたちなか総合病院の総合内科とはホットラインの運用も開始し、側面、後方からの支援も充実させていただいております。人間ドックや健康診断など、地域の健康増進にも寄与し、みなさまに安心して過ごしていただけるようお手伝いさせていただければと思います。今後ともご協力、ご指導よろしくお願いたします。



院長 石山 純司



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進室へ

8:15~16:30 (月曜日~金曜日)

TEL 029-354-5202 (直通)

FAX 029-354-5220 (直通)

医薬品の不足の問題について ～なぜ薬が不足するのか？～

薬務局 秋山 裕史

咳止め、解熱剤が手に入らない。皆さんもテレビなどの報道で医薬品が不足しているのはご存じだと思います。医薬品の供給不足が表面化し始めたのは2021年頃です。医薬品の供給不足が後発医薬品メーカーで製造や品質の管理不正などが相次いで発覚したことに端を発します。これにより10社以上の後発医薬品メーカーに対して業務停止処分が命じられ、長期的な製造、出荷の縮小が起きました。厚生労働省は増加する医療費を抑制する目的で先発医薬品より安価な後発医薬品の使用拡大を進めており、21年度の国内における後発医薬品の占める割合は数量ベースで約8割に到達しました。政府の後押しもあり後発医薬品は医療を大きく支えてきましたが、その分製造停止や縮小の影響も拡大しました。さらに新型コロナウイルスやインフルエンザといった感染症の流行も重なり、医薬品供給不足が深刻化し今もその状態が続いています。医薬品は、製薬会社が新薬を開発し国の承認を得て先発医薬品として新薬を独占販売できるようになります。その期間（5～10年）を過ぎると新薬の物質特許が切れた後、後発医薬品メーカーは、新薬と同じ有効成分で効能・効果、用法・用量が同一で新薬に比べて安価な医薬品、いわゆる「ジェネリック医薬品」を発売します。後発医薬品メーカーは、生産効率が低い多くの種類の医薬品を少量生産する傾向にあると言われていています。要因として、特許が切れた複数の品目の医薬品を複数の後発医薬品メーカーが同時期に開発・市場投入することになるため、手掛ける医薬品が多品目となります。また医薬品の安定供給義務により一定期間は出荷が求められるため、少量でもし続けなければならないことも挙げられます。政府は、後発医薬品メーカーに対して医薬品製造品質管理基準（GMP）の運用ができる人材の育成の仕組みや、品質に対する取り組みを可視化できる評価指標の活用などが検討されています。政府の提案に後発医薬品メーカーが協力して取り組むなど、医薬品の安定供給に向け政府と後発医薬品メーカーが一体となった対応が求められています。

毎日の睡眠を見直してみよう

健診センター 二川裕美子

良質な睡眠を十分に得ることで、免疫機能の強化や認知機能の向上、食欲のコントロールがしやすくなるなどの効果が期待できます。また、睡眠不足は高血圧や心臓病のリスクを増加させることもあり、睡眠は多方面に影響しています。今回はより良い睡眠のためにできることをいくつか紹介します。

①睡眠環境を整えましょう。

寝室は静けさを確保し、リラックスできる環境をつくりましょう。また、寝具は寝心地や体への負担に影響を与えます。カバーをまめに洗濯するなどして清潔に保つことも快適さに繋がります。

②暗さを重視しましょう。

人間の脳には目をつむっていても目の奥の網膜で光を感じし、暗いところで睡眠を促すホルモンが出る仕組みがあります。このため、明るいところで寝るとホルモンが分泌されずに睡眠の質が落ちてしまいます。網膜は保安灯などの少しの明るさでも光を感じするので、夜は真っ暗な環境で寝ることが大切です。

③電子機器に注意しましょう。

スマートフォンやゲームなどの刺激的な情報や画像で脳が活性化された状態が続くと、リラックスが妨げられてしまいます。寝る1～2時間前には使用を控えましょう。さらに、スマートフォンの通知音や画面の点滅などが睡眠中に目覚める原因にもなります。寝室には機器を持ち込まないなどの対策をお勧めします。

④起きる時間は一定にしましょう。

朝の覚醒が遅いと夜の眠気も遅くなるので、結果的にリズムが崩れて疲労感が増してしまいます。休日も平日も起床時間は同じにして、就寝時間をフレキシブルに調整すると良いでしょう。休日にゆっくり寝ている習慣があれば、平日との差は2時間程度にとどめることから始めてみましょう。

◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆

診療科	氏名	異動日
内科	田中 真由子	退職 (2024. 3. 31)
	手島 修	退職 (2024. 3. 31)
	和田 拓海	退職 (2024. 3. 31)
	高野 竜馬	採用 (2024. 4. 1)
	鳥羽 智美	採用 (2024. 4. 1)
	長尾 剛太郎	採用 (2024. 4. 1)
	堀口 花実	採用 (2024. 4. 1)
	南橋 丈瑠	採用 (2024. 4. 1)
	目良 麻衣	採用 (2024. 4. 1)
	吉武 寛隆	採用 (2024. 4. 1)
総合内科	鳥崎 千奈	採用 (2024. 4. 1)
	茶山 涼花	採用 (2024. 4. 1)
	平野 祥嗣	採用 (2024. 4. 1)
呼吸器内科	古川 琢斗	採用 (2024. 4. 1)
	高橋 優太	退職 (2024. 3. 31)
	山田 英恵	退職 (2024. 3. 31)
	武石 岳大	採用 (2024. 4. 1)
消化器外科	寺門 幸乃	採用 (2024. 4. 1)
	中泉 太佑	採用 (2024. 4. 1)
	中野 順隆	退職 (2024. 3. 31)
	針替 研太	退職 (2024. 3. 31)
整形外科	岡口 和也	採用 (2024. 4. 1)
	鴨志田 愛	採用 (2024. 4. 1)
歯科口腔外科	栗原 美里	退職 (2024. 3. 31)
	鈴木 秀典	採用 (2024. 4. 1)
泌尿器科	角倉 可奈子	退職 (2024. 3. 31)
	武井 潤子	採用 (2024. 4. 1)
リハビリテーション科	渡邊 真広	退職 (2024. 3. 31)
	古川 健太	採用 (2024. 4. 1)
臨床研修医	深谷 考平	退職 (2024. 3. 31)
	池田 祥尚	採用 (2024. 4. 1)
	小川 利菜	退職 (2024. 1. 31)
	石関 駿介	退職 (2024. 3. 31)
	大曾根 礼	退職 (2024. 3. 31)
	大原 由莉	退職 (2024. 3. 31)
	金子 真	退職 (2024. 3. 31)
	亀山 嘉志人	退職 (2024. 3. 31)
	小林 大輝	退職 (2024. 3. 31)
	古谷野 祐貴	退職 (2024. 3. 31)
	篠田 正晃	退職 (2024. 3. 31)
	西浦 悠人	退職 (2024. 3. 31)
	松本 龍元	退職 (2024. 3. 31)
	吉田 淳	退職 (2024. 3. 31)
	浅原 真由	採用 (2024. 4. 1)
	金森 亮平	採用 (2024. 4. 1)
	咸 大誠	採用 (2024. 4. 1)
	小瀬戸 章浩	採用 (2024. 4. 1)
	佐藤 彩果	採用 (2024. 4. 1)
	立花 里彩	採用 (2024. 4. 1)
田中 祐樹	採用 (2024. 4. 1)	
平川 駿	採用 (2024. 4. 1)	
野本 大地	採用 (2024. 4. 1)	
谷中 大祐	採用 (2024. 4. 1)	